

ミスは現場で起きている。

でも、どこから手をつければ良いかわからない。
そんな課題を改善プログラムが解決します。

これまでと同じやり方で制作を進めているはずなのにミスが減らない、スケジュール通りに進んだためしがない…。いまが、改革のチャンス。これまでのやり方を見直してみませんか？制作フロー改善プログラムで、新しい制作フローの構築をサポートいたします。

【大伸社ディライトが提供するソリューションメニュー】

把握する



診断



優先順位を
決める



課題の根本を
解決

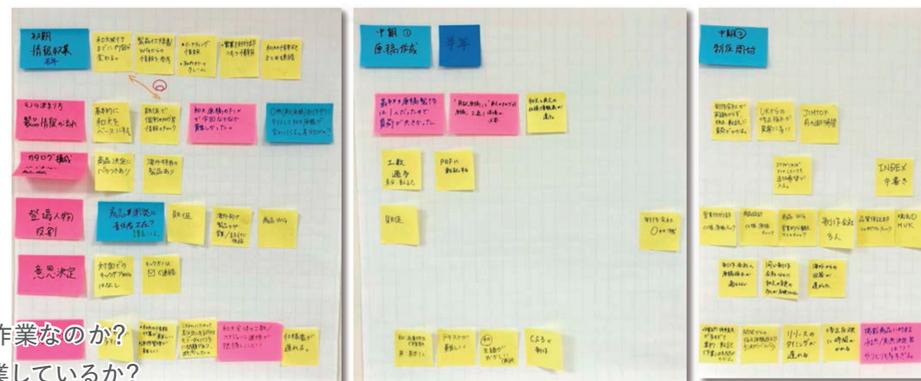
制作のワークフローを“見える化”することで、課題が見えてくる。

現状のフローのどこが悪いのか? どう改善すればいいのか?

「きっとここが悪いから改善しよう」、「この作業は必要(と聞いているので)なので変えれない」。

そんな主観や先入観で取り組むのは非常に危険です。

現状把握をしっかり行うことで、さまざまなフロー改善の手がかりを抽出することができます。



【よく見られるツールありきの制作工程】



表面化しない
潜在的な課題は
未解決

- ・重複した工程がないか?
- ・自分たちでしかできない作業なのか?
- ・効果的なタイミングで作業しているか?
- ・ミスが発見できるフローか?
- ・機械に置き換えられる作業はないか?
- など

【大伸社ディライトが提供するソリューションメニュー】



聞く
なぜかいつもミスが起こる、スケジュール通りにいかないといった現状の課題を徹底的にヒアリングする。

知る
ヒアリングした内容を項目ごとに分類し、制作工程の中で何がおきているのかを知り、メンバーで共有する。

診る
共有した内容をもとにメンバーで工程の問題点を探り、解決策や新たな課題を見つけ出す。

大伸社ディライトが提供するフロー改善ツール

弊社では最適な【表現設計・プロセスコミュニケーション・データ運用】の視点で、制作フローの診断と改善点のご提案をさせていただきます。

■タスク抽出型フロー分析

各工程ごとのタスクを抽出して一覧することで、重複や無駄な作業が抽出しやすくなります。お客様と制作会社などで色分けすることで、負荷状況の分析も行えます。

■ジャーニーマップ型フロー分析

関係者が、どこで、どのような作業(体験)を行っているかを可視化する手法。作業だけではなく、「コト」に主眼を置くことで、関係者の不満やミス・ヒヤリハットなども表現できます。

■フロー構築後のプロジェクト管理

現状フローの把握から新たなフローを構築することで、プロジェクトを緻密に設計することができます。それにより、行き当たりばったりにならない、システムチェックなプロジェクト管理が行えます。